ペチュニア

■ペチュニアのプロフィール

学名：*Petunia x hybrida*
科名：ナス科
分類：一年草
原産地：南アメリカ

初夏から秋にかけて咲く草花で品種改良も多くなされていて、500 種以上の園芸品種があります。大輪、中輪、小輪種があり、八重咲き、一重咲きなど、バラエティに富んでいます。

朝顔に似たカラフルな花を咲かせるペチュニアの故郷は南アメリカで、ブラジルとアルゼンチンに野生している二つの種から生まれたものです。
葉に細かい毛があり、手で触れるとべたつきますが、このべたつきは原産地で病害虫から身を守ることに役立っており、その性質が残っているのだそうです。

■ペチュニアの育て方

●タネまき

タネは大変小さいので、ジフィーセブンやピートバン、またはタネまき用土にまいて苗を育てます。好光性種子（発芽に光が当たることが必要）なので覆土はせず、トレーなどに並べて水を張り、下から土に吸水させます。
発芽までは 10 日前後ですが、気温が低いと発芽までの日数が長くなります。発芽がそろったら受け皿の水を捨て、乾いてきたら吸水させるようにすると、根張りのしっかりした苗に育ちます。
※小さな粒のタネをまくときは、割りばしの先端を濡らして、タネをその先端にくっつけるようにしてまくか、または、はがきのような紙を二つに折ってたねを置き、紙をトントン、と指で叩いて少しずつ土の上にばらまくようにします。

ペチュニアの種、粒がとても小さい

●育て方のポイント

発芽後、子葉が展開し、密に生えた所は葉と葉が触れ合って込み合ってくるので、葉が軽く触れ合う程度の間隔を保つように間引きます。タネまき後 30～40 日、本葉が 2～3 枚になった頃が移植の適期です。先端を尖らせた箸の先で根をほぐし、6cm ポットに植えます。
タネまき後、早いものは 2 カ月くらいで開花します。ペチュニアは、咲き続けながらも株が生長するため、肥料が切れないように、月に 1 度は肥料を与えましょう。
枝分かれを繰り返しながら枝が伸びて姿が乱れてくるので、伸びすぎた枝は、1／3 ほどに切り戻すと、しばらくは花が見られなくて寂しくなりますが、切ったところから若い枝が伸びて、また新鮮な花を楽しむことができます。
切り戻す時は必ず、枝を切る下 2～3 節に葉があるのを確認してから行ってください。切り戻した下の部分の葉が 1 枚でも多い方が、若い芽が早く多数出ます。